

第12回 日本製薬医学会 年次大会「製薬医学の新しい様式」(大会長 松山琴音)

<基調講演> COVID-19の臨床

大曲 貴夫

国立国際医療研究センター

国際感染症センター

座長

芹生 卓 APCER Life Sciences / 京都薬科大学

グラフィックレコーディング

吉川 観奈

共催 EPクルーズ株式会社

(2021年10月30日(土) 日本橋ライフサイエンスハブ
リアル参加+LIVE型Web配信+オンデマンド配信)

The 12th Annual Meeting of the Japanese Association of Pharmaceutical Medicine 2021
— A new style of pharmaceutical medicine (President: Kotone Matsuyama)

< Keynote lecture > Clinical Practice for COVID-19

Norio Ohmagari

Disease Control and Prevention Center
National Center for Global Health and Medicine

Chaired by Taku Seriu

APCER Life sciences / Kyoto Pharmaceutical
University

Graphic recording by Kanna Yoshikawa

Co-organized by EP-CRSU CO., LTD.

(Saturday, October 30, 2021, Nihon bashi Life Science Hub)

抄録

COVID-19では多くの場合咽頭痛や微熱などの風邪の症状が1週間程度続いた後、徐々に軽快していく。しかし一部の肺炎患者は呼吸不全をきたし酸素療法が必要になる。人工呼吸や膜型人工肺による治療が必要になる場合もある。基礎疾患として高血圧、心血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患のある患者群では致命率が高いことが報告されている。重症化率・致命率は今後ワクチンの普及とともに変化していくと思われる。

COVID-19の治療として、抗ウイルス薬が用いられている。免疫システムの調整不全が起こって強い炎症が起こることが知られており、この過程に介入するための治療として免疫調整薬による治療が行われている。また抗体療法は軽症から中等症 I 程度の患者の重症化の抑制のために用いられている。

本稿ではCOVID-19の臨床像と治療の内容を解説するとともに、変わりゆく医療体制と今後の見通しについて解説したい。

キーワード

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19), 抗ウイルス薬, ワクチン, 医療提供体制, 研究開発

Rinsho Hyoka (Clinical Evaluation), 2022 ; 49(3) : 343-60.